

氏名：山平芳美

実施国：カンボジア王国

調査研究

活動名称 カンボジアにおける小学校体育としての保健科に関する教育的支援

実施期間 2012 年 9 月 1 日～2013 年 6 月 30 日

(1) 申請した動機

2007 年～2009 年の 2 年間、青年海外協力隊としてカンボジアの体育教育に努めてきた。帰国後、国際武道大学大学院に進学し、カンボジアにおける体育の効果や有効性を検証する研究に専念した。大学院在学中、平成 22 年度の本プロジェクトに採用して頂いた。支援して頂いた研究成果が認められ、平成 23 年度より現在の所属先にて任期制助手として採用されるに至った。また、平成 22 年度の本プロジェクトに採用して頂いた小学校運動会支援活動も、所属先の大学において授業の一環として取り入れられ、2011 年度と 2012 年度と継続されている。

現在も所属先の大学において、カンボジアにおける体育教育に関して継続的に研究を進めることができている。平成 22 年度の本プロジェクトに採用して頂いた感謝の意と共に、単発的研究ではなく今後も調査研究の継続により、開発途上国において保健体育が放置されている現状を打開する一助としたいと願い、調査研究として 2012 年度帰国隊員/青年支援プロジェクト申請に至った。

(2) 活動内容概要

調査研究を実施するにあたり、2012 年 9 月 1・2 日にかけて国際健康・スポーツ分科会で口頭発表をし、他大学の研究者から様々なアドバイスを頂いた。

カンボジア王国・シハヌークビル州にあるシハヌークビル小学校教員養成学校附属アヌワット小学校を、本調査研究のモデル校に選定した。モデル校において教育インフラに関する調査や、モデル校教員に対して保健教育に関する聞き取り調査を実施した。保健教育の構築に向けて問題を分析し、モデル校教員に対して保健教育の指導法を提示し、改善を行った。

保健の授業において生活習慣に関する質問用紙を活用し、全児童の生活記録を分析した。生活習慣記録の分析を教員に対してフィードバックし、児童の日常生活改善を促す保健教育に繋がった。また、保健の授業を通して、校内環境の問題点や改善点を教員が提示し、児童自ら考えることで、校内美化が促進される結果となった。また、理科や社会科等の他教科と保健の学習内容が重複している問題点は、それぞれの教科の連携によって学習効果を高める可能性があることが示唆された。

2013 年 6 月 8 日(土)、日本運動・スポーツ科学学会第 20 回記念大会において、本調査研究を中心に口頭発表を行った。



かけっこをする男子児童



掃除中の女子児童

(3) 活動の成果・苦勞した点・反省点等

調査研究の成果として、生活習慣記録シートを活用して、児童の日常生活改善を促す保健教育を実施したところ、徐々に学校内で改善が見られた。生活習慣記録シートの活用はモデル校校長の評価も高く、現地の教育・青年スポーツ局（日本では教育委員会等にあたる）にも報告があげられた。また、モデル校における継続性を SNS 等の Facebook を活用して確認する新しい取組も行っている。

2013年6月8日(土)、日本運動・スポーツ科学学会第20回記念大会において「開発途上国における保健教育の有効性-カンボジア・シハヌークビル週における小学校の事例-」の題目で口頭発表を行った。発表の結果、生活習慣記録シートを活用して学校改善に繋がった点やプレゼンテーションが評価され、オーラル賞（口頭発表賞）を獲得した。

苦勞した点・反省点としては、学会発表後の意見でも頂いたが、本当に現場のニーズに合った保健教育を提示できているかという点である。今後の課題としては、農村部の小学校の事例や、他の小学校の事例を積み重ね、カンボジア現状に適した保健教育指導法の提示が求められると考えている。

(4) 今後のプラン

約2ヶ月後の8月31日・9月1日で国際健康・スポーツ分科会第11回大会が、所属先の大学主催で開催される。本調査研究に対する知見を得る為に口頭発表の予定である。また、カンボジアにおける保健科教育に関する調査研究も広く活動を共有化したい。

本年度、所属先の大学において私自身の研究活動に対する勤務先の評価と審査を受ける。学会でオーラル賞を頂くことができたのも、本調査研究を平成24年度帰国隊員/青年支援プロジェクトとして支援した頂いたお陰である。感謝の意を表したい。これからも日々弛まぬ努力をする決意である。

今後も研究と実践の橋渡しをする新しい活動を大学内外で続け、体育・スポーツを通して国際社会に貢献していきたいと考えている。